

四季の風



■発行責任者／病院長 豊田 秀徳
■編集／大垣市民病院広報・企画委員会

広報 第92号

●発行 令和7年10月1日●

CONTENTS

アトピー性皮膚炎の新規治療 ……………P1
エピペン® 教育を地域へ ……………P2
地域連携医療機関紹介 ……………P3

カテーテルアブレーションについて ……………P4
病院バックヤードツアー開催 ……………P4

診療部 専門医が教える家庭の医学

アトピー性皮膚炎の新規治療 ～薬を塗る+αの治療!?!～

皮膚科 岡村 直之

はじめに

アトピー性皮膚炎に対する治療の基本は、今も昔も変わらず、外用療法です。その外用療法の中心を担うのはステロイド外用薬であることに変わりはないのですが、近年、非ステロイド外用薬もいくつか発売され、治療が一見複雑化しています。また、外用療法のみでは改善が乏しい場合は、全身療法（内服、皮下注射）も行われるようになっており、ますます複雑化しています。今回は、そんなアトピー性皮膚炎の治療について、新薬などの解説も含めて、新規治療の概要をお伝えしたいと思います。

1. 外用療法

アトピー性皮膚炎に限らず、皮膚疾患に対する治療の基本は、薬を塗ること、つまり外用です。外用といっても、単に薬を塗るだけでよいわけではありません。①1日に何回塗ればいいのか、②1回にどのくらいの量を塗ればいいのか、③どの強さの薬をどの部位に塗ればいいのか、④2種類の薬を重ねて塗る場合に、どの順番で塗ればいいのか、⑤塗った後にガーゼで覆った方がいいのか、などなど留意すべき点は、実はたくさんあるのです。ただ、病院やクリニックで外用薬は処方してもらったけれど、どのように塗ったらいいか説明を受けていない、または、説明されたがよく理解できていない、などといったケースが多いのが現状です。同じ外用薬でも、塗り方しだいで、よく効いたり、効かなかったりするのです。そこで出番となるのが外用のプロである皮膚科専門医です。たかが外用、されど外用です。皮膚疾患は比較的身近なものなので、かかりつけの内科などで診てもらっている場合も多いと思います。しかし、薬を塗っているのにも関わらずよくならない場合には、ぜひお近くの皮膚科専門医に相談してみましょう。また、以下で説明するJAK阻害薬や生物学的製剤などの全身療法をすれば、外用療法は必要ないのではないかと勘違いされる方がいますが、結論から申し上げますと外用継続は必要です。ただ、外用の頻度は減らせる可能性があります。全身療法をされる際は、皮膚科専門医の指導の下、外用療法も適宜継続していきましょう。

2. 外用量

外用量の目安としては、Finger Tip Unit (FTU) という概念が用いられます。成人の人差し指の先端から第一関節まで外用薬をのせた量であり、約0.5gに相当します。この量は、成人の手のひら2枚分の面積に外用するのに適した分量の目安となります。もう少し簡単なものと、外用した後に光に照らしてみても反射する程度、または、外用したところにティッシュペーパーを当てて、裏返しても落下しない程度が適量の目安と言われています。ぜひ参考にしてみてください。



3. 非ステロイド外用薬

アトピー性皮膚炎に適応のある外用薬で、ステロイドを含まない外用薬があります。症状が強い時は、ステロイド外用薬で速やかに改善させるのが望ましいですが、長期に連用していくと皮膚の菲薄化など、副作用の懸念が出てきます。そこで、症状が比較的落ち着いたいたら非ステロイド外用薬に切り替える、もしくは併用していく、ということを実施しています。具体的には、プロトピック軟膏、コレクチム軟膏、モイゼルト軟膏、グイタマーククリームが現在、本邦では発売されています。

4. 内服（JAK阻害薬）

アトピー性皮膚炎患者さんの皮膚内部では、サイトカイン（免疫システムに関わるタンパク質）が通常よりも増えて炎症が起きています。産生されたサイトカインが免疫細胞の表面にある受容体という部分に結合すると、さらにサイトカインが過剰に作られてしまい、皮膚のさらなる炎症や痒みが引き起こされていきます。

免疫細胞の中にある「JAK」という部分をブロックすると、かゆみの原因となるサイトカインが過剰に産生されなくなります。つまり、皮膚の内部の炎症が抑えられ、アトピー性皮膚炎の症状改善に

つながります。こうした機序から、現在アトピー性皮膚炎の治療に使われているのが、JAK阻害薬という内服薬です。かゆみを比較的早く改善してくれることが多い薬です。もちろん、皮疹にも効果が高いです。ただ、外用療法が必要なくなるわけではないので、外用継続は必要です。なお、当院で扱っているJAK阻害薬には、オルミエント、リンヴォックがあります。興味がある方は、皮膚科専門医に相談してみましょう。

5. 皮下注射（生物学的製剤）

上記のJAK阻害薬のところで、アトピー性皮膚炎患者さんの皮膚内部でサイトカインが通常より増えていることはお伝えしました。

そのサイトカインの中に、「IL-4」、「IL-13」があり、アトピー性皮膚炎と強く関連があると言われています。この「IL-4」、「IL-13」をブロックして皮膚の炎症を抑えるのが、生物学的製剤と言われる皮下注射のお薬です。JAK阻害薬と同様に、皮疹やかゆみに対して効果が高いです。こちらも外用継続は必要なので、強調しておきます。皮下注射のお薬ですが、患者さん自身が皮下注射（自己注射）することもできます。なお、当院で扱っている生物学的製剤には、デュピクセント、イブグリース、アドトラゼ、ミチーガがあります。こちらも興味がある方は、皮膚科専門医に相談してみましょう。当院でもお気軽にご相談ください。



薬剤部

エピペン® 教育を地域へ ～アナフィラキシーから こどもたちを守るために～



薬剤部 吉田 真也

アナフィラキシーとは

アナフィラキシーとは、食物・医薬品・ハチ毒など、特定の原因（アレルゲン）に体が過剰に反応し、急激に全身症状が現れる重篤なアレルギー反応です。主に呼吸困難、血圧低下、意識障害などを伴い、ときに命に関わる可能性があります。通常、発症から30分以内に重篤な症状が急速に進行し、医薬品では平均5分、ハチ毒では15分、食物では30分で呼吸停止や心停止に至るケースが報告されているため、迅速な対応が求められます。

近年、アナフィラキシーを発症する子どもは増加傾向にあり、小学校で0.6%、中学校で0.4%、高等学校で0.3%と報告されています。つまり、200人に1人の割合でアナフィラキシーを経験しています。

アナフィラキシーの緊急時対応

アナフィラキシーの進行は非常に早く、医療機関への受診が間に合わない場合に備えて対処できる体制を整えておくことが重要です。アドレナリン自己注射（エピペン®）は、アナフィラキシー緊急時の第一選択薬です。過去に強いアナフィラキシーの経験があり、そのリスクが高いと判断される場合に医師から処方されます。エピペン®を早期に投与することで死亡率や重症化のリスクを大幅に低下させることが報告されています。ただし、効果は一時的で、約40分で体内濃度が半分量になるため、症状が改善しても必ず救急車を要請する必要があります。

エピペン® 教育の重要性

エピペン® は自己注射薬であるため、いつ・どうやって使うのか、事前に正しく理解しておくことが重要です。しかし、使用するタイミングが遅れた、打ち方を間違えた、という事例が多く報告されています。当院では、2023年7月より、アレルギーエデュケーターという資格をもつ薬剤師が中心となり「エピペン薬剤師外来」を開設し、患者教育を行っています。実践的な症例のシナリオや確認テストなどを取り入れ、繰り返し学習することで知識の定着を目指します。個別で行うため、個々の理解度や都合に合わせた指導が可能であり、安心した環境で指導を受けることができます。

また、保護者の方から「学校での対応や管理体制に不安がある」との声が多く寄せられています。これを受けて2025年5月より、市内の幼稚園・保育園の教職員を対象とした出張講演を開始しました。各園の要望に応じて日程を調整し、アレルギーの基礎知識、エピペン®の使用タイミング・使用方法・管理方法のポイントなどを、グループディスカッションによる実践練習も交え約1時間にわたり講演します。

こうした取り組みを通じて、子ども本人・保護者・教職員のすべてが正しい知識を持ち、安心して対応できる体制づくりを目指しています。

おわりに

アナフィラキシーを発症した場合、エピペン®を「使うか使わないか」で迷っている時間はありません。命を守るためには、正しい知識と適切な判断力を事前に身につけておくことが非常に重要です。今後も、こうした教育の機会を継続し、理解の向上と維持に努めていきたいと考えています。

ご不明な点や相談ごとがあれば、薬剤部までお気軽にお問い合わせください。





地域連携医療機関紹介

いはらクリニック

内科・外科・消化器内科

医師
井原 頌

〒503-2221
大垣市青墓町1丁目131
TEL:0584-91-1121

休診日／
日曜日、祝日、水・土曜日午後



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後4:00～7:00	○	○	—	○	○	—	—

先生
からの
一言

当院は地域のかかりつけ医として幅広く診療を行っており、親切・丁寧な診療を心がけています。また、大垣市民病院との連携も密に行っております。健康上の不安等がありましたら、お気軽にご相談ください。

大屋クリニック

内科・消化器科・小児科・皮膚科

医師
大屋 英樹

〒503-0946
大垣市浅中3丁目9-1
TEL:0584-89-4681

休診日／
日曜日、祝日、水・土曜日午後



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後4:00～7:00	○	○	—	○	○	—	—

先生
からの
一言

当院は浅中グラウンドより東へ700m、江東小学校の近くにあります。専門は内科・消化器内科ですが、小児科・皮膚科等幅広く対応しています。何でもお気軽にご相談ください。尚、駐車場は40台可能で、大型車も対応可能です。

長沢整形外科

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

医師
長沢 博正
長沢 範和

〒503-2224
大垣市稲葉東3丁目18-1
TEL:0584-92-2233

休診日／日曜日、祝日、木・土曜日午後



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後4:00～7:00	○	○	○	—	○	—	—

先生
からの
一言

肩こり、腰痛、膝や手足の痛み、痺れ等の症状や、骨粗鬆症、関節リウマチ、スポーツ外傷の診断治療、リハビリテーションを行っております。患者さんの症状に合わせて、適切な医療を提供できるよう努めてまいります。

可知医院

内科・外科・整形外科・小児科

医師
可知 宏隆

〒503-0532
海津市南濃町太田801-1
TEL:0584-56-1044

休診日／
日曜日、祝日、木曜日・土曜日午後



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	—
午後6:00～8:00	○	○	○	—	○	—	—

先生
からの
一言

地域の方に安全、安心な医療を提供できるように日々研磨をつんでいきます。また、専門性の高い病気に関しては迅速に専門医療機関への紹介をさせていただきます。

和田内科胃腸科

内科・消化器科・呼吸器科・循環器科・小児科

医師
和田 英利
和田 啓孝

〒503-2112
不破郡垂井町綾戸903-7
TEL:0584-23-2828

休診日／日曜日、祝日、水曜・土曜日午後



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後3:45～6:30	○	○	—	○	○	—	—

先生
からの
一言

CT、胃カメラ、大腸カメラ、エコー等完備し、医師2人体制にて診療しております。大垣市民病院との連携をしっかりと行い、安心安全な医療の提供を心がけています。

荒川医院

内科・小児科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科

医師
荒川 迪生
荒川 恭宏

〒503-0216
安八郡輪之内町大吉新田562
TEL:0584-69-2383

休診日／日曜日、祝日、木・土曜日午後



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後4:00～6:30	○	○	○	—	○	—	—

先生
からの
一言

小児科・内科全般（とくに消化器内科、循環器内科、呼吸器内科を専門）とした診療を行っております。CT、エコー、肺機能検査の他、AI支援機能を搭載した胃・大腸内視鏡、41項目の院内アレルギー検査装置等を導入しております。小さなお子様から高齢の方まで、幅広く地域の皆様のお役に立てるようなクリニックを目指します。

医療技術部

カテーテルアブレーションについて

臨床工学技術科 医療工学センター 高木 理守



私たち臨床工学技士が携わっている不整脈治療業務の一つに「カテーテルアブレーション」があります。

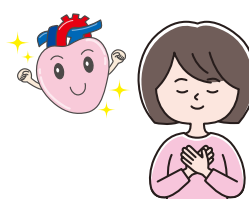
カテーテルアブレーションは不整脈に対して行われる治療法で不整脈を引き起こす異常な心臓内興奮が無くなる、または伝導しなくなるよう心臓内局所をカテーテルで焼灼して正常なリズムを取り戻す治療です。正式には「経皮的カテーテル心筋焼灼術」と呼ばれ、カテーテル手術の1つに分類されます。

治療は、足の付け根や首の静脈から径1.3mm～2.6mmの細長い管（電極カテーテル）を数本挿入し、血管をたどって心臓の中に進めます。カテーテルの先端付近には電極と呼ばれる金属がついていてカテーテルを体外の専用機器に接続することによって、心臓内の電気現象を記録、心臓に電氣的刺激を加えることができるようになります。その後複数のカテーテルから記録される電気の情報から、不整脈の原因を突き止めどこを治療すべきかを判断することができます。治療部位には焼灼専用

のカテーテルを進め、高周波電流を流します。カテーテルと接した心臓組織は高周波電流によって温められ、細胞が壊死し異常な心臓内興奮を生じなくなり、対象の不整脈が消失します。

治療対象は薬剤では治療困難な頻脈性不整脈となり、心原性脳梗塞の原因となる心房細動など心房関連の不整脈治療が多く行われています。

当院においてカテーテルアブレーションは年々件数も増加、2020年以降は年間約500件行っています。また、診断技術・治療機器の技術進歩が早い分野であり、近年ではエネルギーソースの変化により「冷凍アブレーション」、



「パルスフィールドアブレーション」といった高周波以外の治療機器が開発され、県内において早期導入されています。治療効果・治療時間の短縮・合併症等にも配慮し治療方法を選択、患者中心のチーム医療を行っています。

病院バックヤードツアー開催

8月16日④

プロジェクトチーム 総括 日比 敏男



令和7年8月16日(土)に、今年で第7回目となる「大垣市民病院バックヤードツアー」が開催されました。連日厳しい暑さが続く中、参加者の体調管理に配慮しながらの体験ツ

アーとなりました。このツアーには応募者多数の中から抽選で選ばれた市内外から50名を超える中高生の方々に参加していただきました。今回は、薬剤部に代わりリハビリテーションセンターの見学、また手術室の見学時間を延長しての実施となり全体としては昨年よりやや長めのスケジュールとなりました。半日の限られた時間内ですが院内のあらゆる場所・部署を巡っていただきました。中でも、防災ヘリコプター（屋上のヘリポート）の見学や手術室のコースは心躍らされるシチュエーションではなかったでしょうか。

ツアーコンダクターを務めていただいた研修医の先生や

看護師さんの案内を受けながら、各見学場所で説明を聞く際には興味深々に耳を傾ける様子や、実際に模擬体験を行っている姿にはいきいきとした表情が見受けられました。

病院職員でもなかなか見ることのできない病院の裏側を、この機会に体験してもらえたことで医療に対する興味や関心がより一層高まり、将来、病院などの医療機関で（当院であればより嬉しいことですが）働きたいと思って貰えるような契機となれば良かったと感じます。

この病院バックヤードツアーは年々盛況となり、今後もその期待に応えるべく開催されていく企画と思われます。また、その際には興味を持つ学生さんが多数応募してもらえることを期待しています。

参加していただいた皆さま、また運営に携わっていただいた職員の皆さま、お疲れさまでした。



病院の理念

患者中心の医療・良質な医療の提供

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。



No smoking

健康増進法に定められた受動喫煙防止対策により、当院の敷地・駐車場内は**全面禁煙**です。ご理解とご協力をお願いします。

大垣市民病院線

～駅と病院を直通ノンストップ～



運行日：市民病院の診療日
運賃：おとな 210円 こども 110円
*交通系ICカードは利用できません
定員：8人（先着順）

時刻表	大垣駅(発)	市民病院(発)
8時	00 30	10 40
9時	00 30	10 40
10時		30 40
11時	00 30	10 40
12時	00	10

大垣駅南口⇄市民病院正面玄関

お問い合わせ先／名阪近鉄バス株式会社 TEL. 0584-81-3328

編集後記

「四季の風」は平成15年に刊行し、今号で92号になります。バックナンバー（36号以降）は右記2次元コードよりご覧になれます。次回は1月1日に発行予定です。今後とも多くの皆さまの声をお聞きしながら、読みやすい紙面づくりを目指してまいります。ご意見ご要望がございましたらお気軽にお寄せください。



四季の風
バックナンバー

大垣市民病院広報・企画委員会

〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
TEL(0584)81-3341 FAX(0584)75-5715
<https://www.ogaki-mh.jp/>
（電話でのお問い合わせについては、お間違いのないようお願いいたします）